

1 山梨県内公共図書館の概況（平成30年度）

市町村立図書館の建て替えに関する動きとして、市川三郷町では、新図書館として「市川三郷町生涯学習センター」の建設を予定している。7月には、募集していた「市川三郷町生涯学習センター」の愛称が「ifセンター」に決定した。8月21日には起工式を行い、2020年1月の開館を目指している。

図書館リニューアルの動きとして、南アルプス市では、7月5日に「白根生涯学習センター・白根桃源図書館」が入る複合施設が完成し、竣工式が行われた。

甲斐市では、生涯にわたる読書をすすめるべく「甲斐・本の寺子屋」と題した事業を始めた。7月には地域の書店の従業員や住民が事業内容について提言する「甲斐・本の寺子屋を支える会」も発足した。今後は図書館司書も参加して意見交換を行い、事業内容の助言を受ける。初回の12月2日には作家の高橋源一郎氏を招き、「読んじゃいなよ！ーぼくはこんなふうにも本を読んできたー」と題した講演を行い、3月3日には歌人の俵万智氏、三枝浩樹氏による対談を行った。

富士河口湖町では、9月、富士河口湖町生涯学習館に読書通帳を導入した。読書通帳と機械の導入は南アルプス市に続いて、県内2館目となる。企業版ふるさと納税として、地域の金融機関の寄付をもとに通帳5000冊を製作した。また富士吉田市では2月、平成31年度からの読書通帳事業開始に向け、金融機関より導入費用の寄付を受けた。

県立図書館の動きとしては、4月、言語学者の金田一秀穂氏が館長に就任し、阿刀田高前館長は名誉館長に就任した。同じく4月には開館からの入館者が500万人に達し、記念セレモニーを行った。7月15日には金田一館長就任後初となる館長企画事業の講演会「AIと言葉」を開催した。11月には情報システム機器の入替を行い、山梨県図書館情報ポータルを整備するとともに、地域情報発信端末としてデジタル情報スタンドを設置した。また、6月から9月にかけては、「第5回贈りたい本大賞」の募集を行い、11月、応募総数5,654点から大賞5点を決定した。また、館長企画事業として、阿刀田高名誉館長や辻村深月氏を招いた講演会およびトークショーを開催した。

その他の動きとして、山梨県立図書館の名誉館長である阿刀田高氏が11月5日、文化功労者に選ばれた。甲州市では、10月30日、勝沼図書館がLibrary of the Year2018の最優秀賞&オーディエンス賞を受賞した。